

2023年度 流域圏担い手づくり事例集について

'24. 2. 2 豊田市矢作川研究所 洲崎燈子

【これまでの事例集づくりについて】

- ・ 中山間地の活性化を進め、過疎化や少子高齢化問題を解決に導く糸口として、持続可能な流域作りに関わる102団体に取材を行い、2013～2016年度にかけて4冊の「山村再生担い手作り事例集」を、2017～2018年度にかけて2冊の「流域圏担い手づくり事例集」を作成した。
- ・ 2019～20年度は事例集づくりを休止し、流域圏懇談会10年誌を作成。
- ・ 2021年度は学童保育木造化プロジェクト、2022年度は錦二丁目都市の木質化プロジェクトを取材対象とし、都市を巻き込んだ流域圏づくりを支える複数の方を取材して、その立体像を描く「流域圏担い手づくり事例集」を作成した。
- ・ 2017～19年度および2023年度には、事例集づくりでできた人のつながりを深め、広めることをめざして「事例集交流会」を開催した。

事例集のあゆみ

発行年度	タイトル	調査団体数	備考
2013(H25)年度	山村再生担い手づくり事例集	21団体(山:21)	
2014(H26)年度	山村再生担い手づくり事例集Ⅱ	21団体 (山:17、川:2、海:2)	川・海の活動団体取材先に加える
2015(H27)年度	山村再生担い手づくり事例集Ⅲ	22団体 (山:18、川:2、海:2)	
2016(H28)年度	山村再生担い手づくり事例集 その後いかがお過ごしですか？ プロジェクト	17団体(山:17)	2013年度の取材先を再取材
2017(H29)年度	流域圏担い手づくり事例集	19団体 (山:12、川:6、海:1)	山村再生担い手づくり事例集交流会開催 (於・根羽村、2017.4.15) 冊子名を流域圏担い手づくり事例集に移行
2018(H30)年度	流域圏担い手づくり事例集Ⅱ	19団体 (山:11、川:7、海:1)	流域圏担い手づくり事例集交流会2018開催 (於・佐久島、2018.4.14)
2019(R1)年度	(流域圏懇談会10年誌作成・ 担い手づくり事例集の振り返り)	—	流域圏担い手づくり事例集交流会2019開催 (於・岡崎市、2019.6.22)
2020(R2)年度			
2021(R3)年度	流域圏担い手づくり事例集Ⅲ	1プロジェクト (個人:6、施設:3)	取材対象:学童保育木造化プロジェクト
2022(R4)年度	流域圏担い手づくり事例集Ⅳ	1プロジェクト (個人:15)	取材対象:錦二丁目都市の木質化プロジェクト
2023(R5)年度	流域圏担い手づくり事例集Ⅴ (予定)	1プロジェクト	流域圏担い手づくり事例集交流会2023開催 (於・豊田市、2023.5.19)

【2023年度の事例集】

・引き続き、一つのプロジェクト（テーマ）に関わる人々・団体を取材対象とする。今年度は伊勢湾、三河湾の海の豊かさをテーマとする。

矢作川流域圏懇談会 公開講座

プラスチックが生き物を苦しめている

あなたはマイクロプラスチック問題の原因を作っていませんか？

マイクロプラスチック問題は、いまだに地球温暖化、気候変動に匹敵する緊急に認識すべき環境問題として挙げられています。マイクロプラスチックは、不適切なプラスチック製品はもちろん、水田に撒かれる化学肥料を含むプラスチック材、食品包装材、化粧品に含まれているスクラブ材、食塩結晶などから発生し、それらが河川や海に流れ出ると、海洋生態系に大きな影響を与えていることが分かってきています。本講座では、西日本大学環境情報学部の千葉賢氏を講師に招き、マイクロプラスチックの伊勢湾での広がり等の実態や新しい知見について、お話をいただきます。

講師 千葉 賢氏
西日本大学環境情報学部 教授

令和3年 7月31日(土) 15:00~17:00

開催方法 ZOOMによるオンライン開催 定員500名

申込方法 ①氏名 ②メールアドレス ③お住まいの市区町村を必ず明記のうえお申込み下さい。

お申込みいただいた方に講座で使用するZoomのURLをお知らせします。
申込期限：7月21日(水) 17:00まで

参加無料

主催 矢作川流域圏懇談会 後援 公益社団法人 国土交通省 伊勢湾三河湾事務所 伊勢湾 0532-48-6107

矢作川流域圏懇談会 公開講座

豊かな海の栄養源

～きれいな海は豊かな海か？～

みなさんはどんな海がきれいだと思いますか？
きれいな海は生き物が育ちやすいと思いますか？

田舎で農作物が豊かに育つには、窒素やリン肥料が必要のように、海においても多くの生き物が豊かに育つには、窒素やリンなどの栄養分が必要です。ところが近年、海の栄養分がだんだん減っています。このため、アサリやハマグリが育たなくなり、皆さんが大好きな潮干狩りができない海岸が日本の各地で多くなっています。今回は法改正を行った瀬戸内海の取り組みをご紹介します。果たして、きれいな海は豊かな海なのでしょうか？本講座では、京都大学名誉教授の藤原建紀氏を講師にお招きし、瀬戸内海の取組みについてお話しいただきます。この機会に是非、海の栄養不足について考えてみてください。

講師 藤原 建紀氏
京都大学名誉教授

令和4年 8月20日(土) 15:00~17:00

開催方法 ZOOMによるオンライン開催 定員500名

参加無料

申込方法 ①氏名 ②メールアドレス ③お住まいの市区町村を必ず明記のうえお申込みください。

お申込みいただいた方に講座で使用するZoomのURLをお知らせします。
申込期限：8月18日(水) 17:00まで

専用フォーラムURL https://us06web.zoom.us/join/register/WN_sDNEe1H6TF5XMMWEQrChUsw

主催 矢作川流域圏懇談会 後援 公益社団法人 国土交通省 伊勢湾三河湾事務所 伊勢湾 0532-48-6107

2021・2022年度公開講座チラシ

「大きな人口を抱える都市自体も流域圏の「いいところ」で成り立っている存在なのではないか、そのことを意識して山を見なければならぬのだろう。山の管理だけでなく、海もそうだ。上流の都市（だけではないが）が経済的で便利・快適、効率的な暮らしをするための代償として、大量のプラスチックごみを受け入れることとなる。誰が本当にそれを負担すべきなのだろうか。」（流域圏担い手づくり事例集Ⅳ、p40）

<進捗状況>

・寄稿者と取材対象者

寄稿者

氏名	所属	備考
青木 伸一	大阪大学名誉教授	海部会座長
鈴木 輝明	名城大学特任教授	海部会副座長
蔵治 光一郎	東京大学教授	山部会座長
近藤 朗	22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会事務局長	海岸漂着ゴミ問題について関係者に取材しまとめる

取材対象者

氏名	所属	担当	備考
平賀 大蔵	海の博物館 館長	三ツ松	
石田 俊朗	愛知県水産試験場	洲崎	
	三重県水産研究所	洲崎	かつて所員だった竹内泰介氏経由で岡田氏への取次・紹介をお願い中
岩尾 豊紀	鳥羽市水産研究所	浜口	2024/1/24取材済。隣接する三重大学生物資源学部水産実験所もあわせて視察。案内者：松田浩一教授（所長）
	愛知県水産課	近藤	下水試験の調査・報告・連絡を担当
中村 欣一郎	鳥羽市長	近藤	2023/9/28取材済。レポート執筆：向井

・2023/12/12 海部会での確認事項とコメント

青木座長が編集長、鈴木副座長、高橋伸夫さん、石田基雄さんが編集委員となる（読み合わせ、とりまとめなどはこれまで通り取材者が中心となって実施）。

「当初の矢作川流域圏懇談会海部会は、浅場の埋め立てが赤潮や貧栄養化の元凶と考え、干潟・浅場を保全・造成するために正常な土砂の供給を期待するという立場だった。しかし、急激な栄養不足によりアサリの生産能力が下がったため、そちらが最優先となった。現在は海の栄養塩管理と干潟・浅場の造成を両輪で考えている。

2024/3/9（土）に中電ホールで、愛知県と三重県の漁業者を中心に伊勢湾・三河湾の漁業のこれからについて意見交換会を開催する。漁業者の考え、不安、展望について話してもらう。その資料を事例集に利用してもらうといいのではないか」（鈴木副座長）

・2023/9/28 鳥羽市長、中村さんの取材

鳥羽市は観光に環境問題を取り込んでいる。観光課が市内で見られる海の生き物のレッドリストを出版、また海岸清掃イベントを開いて、地域にお金を落とす観光モデルを行っている。

・2024/1/24 鳥羽市水産研、岩尾さんの取材

鳥羽市は海の博物館との協働でアマモ場の再生を進めている。海の博物館は市民参加型のアマモ場の再生も行っている。

・海の博物館の取材には信州大生が参加予定（事前学習会を実施？）

・今後のスケジュール

～2月末

寄稿原稿とレポートの集約、読み合わせ

～3月末

編集作業、校正、デザイン、印刷